2024年 10月号（毎月5日発行）　第191号　発行部数 10,000部（無料配布）

人と音を結ぶ
Classic Nagoya
クラシック名古屋
〒460-0024
名古屋市中区正木四丁目8番7号れんが橋1F
TEL(052)678-5310 FAX(052)678-5330
https://clanago.com
プレイガイド
アイ・チケット
☎0570-00-5310
Motty

ナゴヤ劇場ジャーナル®

◆発行／マネージメント・プロ　◆編集／プランニングオフィス白壁　◆協賛／クラシック名古屋

MANAGEMENT PRO
業務内容
①舞台・イベントの企画・制作・マネージメント
②芸術コンサルティング
③タレントのマネージメント
④ナゴヤ劇場ジャーナルの発行
マネっちゃ
株式会社マネージメント・プロ
〒461-0004 名古屋市東区葵2-11-22 アバンテージ葵ビル301
TEL：052-508-5095　FAX：052-508-5097
E-mail：mane-pro@mane-pro.com
HP：http://www.mane-pro.com

実力派4女優、本気のバトル

「楽屋～流れ去るものはやがてなつかしき」

10月26、27日 ちくさ座で公演

左から堀優子、荒川洋子、いのこ福代、黒河内彩（撮影・服部義安）

演劇とは、舞台上で俳優により繰り広げられる虚構のドラマ。俳優たちは舞台に上がる前、楽屋で〝こしらえ（化粧や衣装）〟を整え、登場人物へと変身する。清水邦夫の名作「楽屋～流れ去るものはやがてなつかしき」は、観客が見ることのない楽屋の出来事をつづった4人の女優の特異な物語である。

その異色作が「名古屋市民芸術祭」「大アマチン祭」参加作品として10月26日（午後2時、6時30分）27日（午前11時、午後2時）千種文化小劇場で公演される。演出は劇座の岡田一彦。出演はいのこ福代、荒川洋子、堀優子、黒河内彩。一癖も二癖もある実力派4女優である。

登場人物に役名はなく、脚本にはA、B、C、Dとだけ書かれている。この劇場ではチェーホフの「かもめ」が上演されている。楽屋ではA（いのこ）とB（堀）が鏡に向かい、化粧をしながら雑談している。そこに主役を演じているC（荒川）と、プロンプターを務めるD（黒河内）が来て…。

この芝居、役者にとっては「身につまされる部分が多い」とか。つまり女優業の厳しさ、老いていく恐怖、なぜこうまでして役者稼業にのめり込むのか…などなど。「役柄がそのまま自分に当てはまる」「お前に役者を続けていく根性があるのか、と問われている気がする」というのである。

演出の岡田は「4人の女優が、自分自身と対峙しながら演じることになる。役者にとっても、ボクにとっても意義深い作品。彼女らの生きざまを、ぜひ見届けてほしい」と来場を呼び掛けている。

日時指定自由席。一般3500円、高校生以下2500円。℡070（5037）0320。

喜び語る芸創賞・箱﨑さん、矢代さん

箱﨑由衣さん㊧と矢代将弥さん

2023年度「第40回芸術創造賞」授賞式（8月23日・名古屋市青少年文化センター）が行われ、クラリネット奏者の箱﨑由衣、俳優で劇作演出家の矢代将弥にメダルと賞金30万円が授与された。両者のネームプレートは、芸術創造センターロビーの壁面に、歴代受賞者と共に掲示される。

箱﨑は12～24年3月までセントラル愛知交響楽団に所属。今年1月の同団定期演奏会にはソリストとしてブラームスの「クラリネットソナタ第1番」を演奏。2月にはCD「Resonance」をリリースした。

授賞式で箱﨑は「セントラルを離れ、再スタートを切るに当たり、今回の受賞に背中を押された気がします。奏者と聴衆の心が触れ合った時に感動が生まれます。私の演奏がそうなれば嬉しい」と挨拶。11月28日には電気文化会館で開催される「ドイツ晩秋への100年」に出演する。

八代は23年に名古屋市民芸術祭賞特別賞を受賞、24年には東京下北沢で開催された「若手演出家コンクール2023」で最優秀賞に選出された。

八代は「どうやって人を驚かせることが出来るかを、常々考えていますが、今回の受賞の知らせ（電話）には驚かされました。演劇をやってきて良かったと思いました。後輩たちに『八代に着いていこう』と思われる存在になりたい」と喜びを語った。12月11～15日には愛知県芸術劇場小ホールで上演される「桜の園」を演出する（文中敬称略）。

特選！映画

映像からあふれ出る音楽と人間性

「恋するピアニスト～フジコ・ヘミング」

10月18日から公開

「技術的に私よりうまい人はたくさんいる。でも、私の音は私にしか出せない」。90歳を過ぎても独自の音楽性を追い求め、2024年4月に死去したピアニスト、フジコ・ヘミングの晩年を描いた映画「恋するピアニスト～フジコ・ヘミング」（監督・小松莊一良）が公開される。

フジコは1931年ベルリンで生まれ、ピアニストだった母から手ほどきを受けた。終戦後は東京藝術大学に進学。卒業後は国立ベルリン音楽大学に留学し非凡な才能に磨きを掛けた。92年にNHKで放映されたドキュメント「フジコ～あるピアニストの軌跡」で一躍有名になった。

今作には2020年から4年間が記録されている。コロナ渦中、東京・阿佐ヶ谷協会での無観客ライヴ、戦時中を過ごした岡山の演奏会、そして彼女が愛したパリでのラストステージ。また愛するペットたちと自宅で過ごす優雅な日々。思い出を語る映像からは、運命を受け入れ、ひらすら音楽を追及するフジコの人間性を垣間見ることができる。

劇中ではリスト「ラ・カンパネラ」、ショパン「英雄ポロネーズ」「幻想即興曲」「ドビュッシー「月の光」、ラヴェル「亡き女王のためのパヴァーヌ」、シューベルト「アンプロンプチュ」ほかがフジコによって演奏される。

10月18日から、名駅前ミッドランドスクエアシネマ＝℡052（572）8808＝ほかで公開。

レオタードのご購入
1枚からでも大丈夫
送料無料
Dan Skate
Ballet Rom
Wear Mari
Grichko
バレエ用品の
Dan Skate ダンスケイト
住所　〒460-0008 愛知県名古屋市中区栄3丁目11-23 白川本町ビル5F（大橋蒲商店の上です）
電話番号　052-265-7900
パソコン・スマホからのご注文は https://danskate.com
https://www.danskate.com/

シャンソンの扉

猛暑の名古屋にスイスの涼風

「エルム」に来演したスーザン㊧とピノ

187 ピノ&スーザン

名古屋の「エルム」には、フランスをはじめ世界各国のミュージシャンが来演するが、今回登場したのはスイスのミュージシャン。ピノ・マスッロ（ギタラ、タンブレロほか）と、スーザン・グリムシャウ（ピアノ）である。二人は1991～96年、スイスのシャフハウゼン音楽学校で学んだ同期生だ。

古くは時計、近年ではローザンヌの国際バレエコンクールで有名なスイスだが、音楽となると全く予備知識がない。興味津々でエルムのライヴに臨んだ。

プログラムは純朴なイタリア民謡、スーザンが独自の世界観をつづった即興曲、スイスの山々の情景を描写した組曲（作曲・ピノ&スーザン）は、リヒャルト・シュトラウスの「アルプス交響曲」を連想させた。

ピノが使う楽器も珍しい。小ぶりなギタラ（ギター）は、17～18世紀に製作された復絃5コース10絃、俗にバロックギターと呼ばれ、マンドリンに似た音が出る。

タンブレロは、タンバリンを一回り大きくした打楽器。叩く カ所によって様々な音が出る。ピノは2019年、大阪国際音楽コンクール（タンブレロ部門）でエスポアール賞を受賞している。

演奏後、今回が初来日になるスーザンは「街は清潔で美しく、人々がとても親切な日本に感動しました。でも、とても暑い」と苦笑。「素敵なエルムで、また演奏したい」と再会を約束した。

Kaya Chanson LIVE Request LIVE 2024.10/27 sun
MALICE MIZERのManaのプロデュースにより『Schwarz Stein』でデビュー。耽美な歌詞とダンスミュージックを融合させた楽曲で独自の世界観を確立、シャンソン歌手としても活動、「瀬間千恵」「加藤登紀子」「チャラン・ポ・ランタン」等と共演！
シャンソン CHANSON 昼公演 open 13:30 start 14:00 5,000yen＋2 order ＊整理番号順入場・全自由席
リクエスト REQUEST 夜公演 open 17:30 start 18:00 5,500yen＋Drink ＊整理番号順入場・全自由席
ツイキャス プレミア配信（リクエスト公演のみ） TwitCasting 3,000yen（アーカイブ2週間）
理想のシャンソン空間 Café Concert エルム TEL 052-733-0085
名古屋市千種区吹上2-4-5　エルム　シャンソン　検索

◇推奨公演◇

◇名古屋市民コーラス創立65周年記念演奏会「REQUIEM／ドボルザーク」11月9日（午後4時）愛知県芸術劇場コンサートホール。指揮は下野竜也、管弦楽は名古屋フィルハーモニー交響楽団。隠岐彩夏（S）、藤井麻美（A）、小原啓楼（T）、伊藤貴之（B）がソリストを務める。

全指定席S5000、A4000、B3000、C2000円。TEL090（9939）3234。

◇倉知可英／山内敦子／磯村崇史「ベル・エポックな夜」11月1日（午後7時）シアターAoi。プログラムは現代舞踊の倉知、ピアノの山内による「白日夢への誘い」、倉知と山内、フラメンコの磯村による「追憶」。

全自由席4500（当日5000）円。TEL080（9495）0075。

多大な功績と人柄偲び
10～12月「大アマチン祭」
名古屋市内の各会場で写真展、演劇、展示会…

名古屋演劇界を長年にわたり牽引してきた俳優・天野鎮雄さん（2023年11月死去）。その多大な功績と人柄を偲び10～12月、名古屋市内の各会場で「大アマチン祭」が開催される。主催は俳優・いのこ福代、演出家・齋藤敏明らによる実行委員会。

故・天野鎮雄さん

催事、公演は次の通り。

❶服部義安写真展「役者・あまちん」10月16日～11月15日、演劇練習館アクテノン。入場無料。

❷演劇公演「楽屋～流れ去るものはやがてなつかしき」10月26、27日（全4回）千種文化小劇場。日時指定自由席3500円＝**1面に詳細。**

❸演劇公演「秋のそら音」（作、演出・齋藤敏明）11月1、2日（全4回）西文化小劇場。出演・伊沢勉、田中すみれほか。日時指定自由席4000円。

❹劇座公演「朝日文左衛門の事件簿」12月12、13日（全3回）愛知県芸術劇場大リハーサル室。日時指定自由席1000円。

❺展示・朗読・トーク「天野鎮雄という生き方」12月17～22日、中区役所市民ギャラリー。入場料500円。

❻「天野鎮雄をしのぶ会」12月22日、吹上ホール9回展望ホール。参加費3000円。

以上、問い合わせはTEL070（5037）0320。

「紫式部」11月9日 名古屋能楽堂
源川瑠々子が歌って語る ひとり文芸ミュージカル

能舞台を主に、歌と語りのドラマを演じる源川瑠々子の〝ひとり文芸ミュージカル〟。その名古屋公演「紫式部～雲隠れ」（脚本・スミダガワミドリ、音楽・演出・神尾憲一）が11月9日（午後1時30分）名古屋能楽堂で行われる。

源川は2003年、夏目漱石の「こころ」をミュージカル化した「もうひとつの、こころ」で舞台デビュー。好評を博した同作を、ひとり文芸ミュージカルとしてシリーズ化し各地で再演を重ねている。

「紫式部～」は、若き式部の奔放な日々から、結婚、出産、夫との死別を経て「源氏物語」に取り組むまでを描いた平安才女の奮闘記。雅な衣装をまとった源川の美しい歌声と立ち居振る舞い、凛（りん）とした能舞台の心地よさを堪能できる絶好の機会になるだろう。指定席4000円、自由席3000円、学生1000円。TEL03（5822）0318。

音楽劇「マハルコ組曲」
11月28日～12月1日 ささしまスタジオ

左から有田あん、S・アリアン、中島弘象

舞台「マハルコ組曲」が11月28日～12月1日、ささしまスタジオで上演される。名古屋在住の作家・中島弘象の書籍「フィリピンパブ嬢の社会学」を基に制作した音楽劇。同書は、中部大学大学院の学生だった著者が、学術調査を行った名古屋のフィリピンパブで従業員女性と知り合い、恋愛関係となったてん末を書いたノンフィクションで、昨年には映画化もされた。

今回の舞台は中島が原案を書き下ろし、「野生児童」主宰の有田あんが作・演出を手がけた新たな物語。1980年代後半、フィリピンから来日した20歳の少女リオが、日本人男性の妻となり、娘をもつ母となっていく激動の半生を描く。リオを演じるのは、映画版「フィリピンパブ嬢の社会学」にも出演したステファニー・アリアン。日本の舞台は本作が初出演。

有田は「ベースに重たい話もあるが、歌とダンスを入れ、全編コミカルで楽しめる舞台にした。当時を知る人にも、現代の人にも響く音楽を選んでいる」と話す。

中島は「多くのフィリピンの方が日本に来たから、今、僕と妻が結婚して暮らすことができている。ルーツといえる時代の人たちのことを描きたかった。舞台を思い切り楽しんでもらった後に多文化共生などについて考えてもらえたら」と話す。

前売り4000（当日4500）円。TEL070（8708）6302。

田中角栄描いた「ザ・スピーチ」
11月11日 アートピアホールで上演

「今太閤」「コンピューター付きブルドーザー」などと称され、一時代を築いた第64代内閣総理大臣、田中角栄を描いた劇団ポラリス（東京）の音楽劇「ザ・スピーチ」（脚本・堀越信二、音楽・新倉一梓、演出・吉田智明）が名古屋で初演される。公演は11月11日（午後2時と午後6時）アートピアホール。

角栄が「浪曲」の愛好家だったという事実に基づき、浪曲とミュージカルを合体させて制作された異色の音楽劇。雪深い新潟の山村から15歳で上京した角栄が、54歳の若さで総理大臣に上り詰めるまでの劇的な半生が描かれる。

主演は新潟県出身の浪曲師・玉川太福、声の出演は俳優の木村多江、共演は演出を兼ねる吉田知明、吉武大地、柿迫秀ほか。演奏陣は西尾周祐（ピアノ）、細野幸一（パーカッション）、服部佐知子（ヴァイオリン）、渡邊ゆかり（チェロ）、玉川鈴（三味線）。

劇団ポラリスは、2022年「ザ・スピーチ」で旗揚げ。音楽大学出身のメンバーで構成。日本特有の「義理人情の世界を表現する」音劇団。

公演では浪曲「天保水滸伝～笹川の花会」が併演される。全指定席6000円。TEL03（6416）0444。

輝け！愛知のバレリーナ
第28回バレエコンペティション21

（8月14～16日・芸術創造センター）愛知の上位入賞者

▼13・14歳②大村凛々子（大寺資二バレエアカデミー）③石黒萌桃（テアトル・ド・バレエアカデミー）

▼11・12歳①渡邊結菜（松岡伶子バレエ団）②大藏悠香（テアトル・ド・バレエアカデミー）③前田いろ葉（MAICOバレエスタジオ）

▼7～12歳（バレエシューズ）①窪田れいら（KUBOTA BALLET車田スタジオ）②相谷羽衣（MAICOバレエスタジオ）③小野田侑希（ワカバレエスタジオ）

▼プロ・シニア①宇田美久（森高子バレエ教室）②水野七菜子（松岡伶子バレエ団）

▼プロ・ジュニア①中島かれん（森高子バレエ教室）②石黒萌桃（テアトル・ド・バレエアカデミー）③大藏悠香（同）

▼ボーイズ・ジュニア③三谷凌平（須山仁美クラシックバレエ）

▼コンテンポラリー②浅井優子（Dance Space Sey）

（撮影・岡村昌夫／テス大阪）

第34回全国バレエコンクール in Nagoya（8月21～23日・芸術創造センター）愛知の上位入賞者

▼女子・小1～4①牧野伊織（バレリーナスクール）②前田美瑠（同）

▼女子・小4～6①武内麻結（バレリーナスクール）③内山唯衣（ダンススペース）

▼女子・中学生①堀部怜名（バレリーナスクール）②後藤綾文（兼子真由美Russian Ballet）

▼女子・高学生③大矢十和子（エリカバレエスタジオ）

▼男子・小1～中2①安田悠人（バレリーナスクール）

▼男子・中3～高3①後藤蒼志（大寺資二バレエアカデミー）

（撮影・田中聡／テス大阪）

渡邊　結菜

窪田れいら

宇田　美久

武内　麻結

中島かれん

堀部　怜名

牧野　伊織

安田　悠人

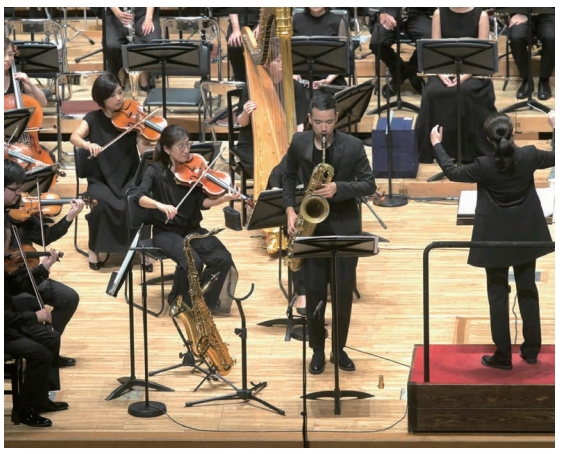
後藤　蒼志

舞台批評
名フィル定演

名フィル演奏会で、細川俊夫作曲の現代音楽「サクソフォン協奏曲」を聴いた（9月6日・市民会館大ホール）。演奏は国内外で高い評価を得る大石将紀。指揮はドイツ生まれの八嶋恵利奈。

まず目を引いたのは、舞台中央に置かれた2台のハープ。そして左右対称に配置されたオーケストラ。一体どんな演奏が繰り広げられるのか、興味津々―。大石はバリトン、アルト、テナーの3本のサクソフォンを幾度も持ち替え、細川の描いた音楽世界を表出した。

大石のサクソフォン病みつきに!?


「サクソフォン協奏曲」を演奏する大石将紀（撮影・中川幸作）

パワフルにして繊細、大きく音程を揺らすこともでき、様々な情景を演出できるのがサクソフォン。細川の解説文によれば、「独奏者（サクソフォン）は人、オーケストラは自然、宇宙」とか。私には、サクソフォンの音が「機嫌の悪いゾウ」に、繊細に継続するオーケストラの演奏は「天候、空気」に感じられた。

現代音楽はリスナーの人生経験によって様々に解釈できるのが面白い。以前、あるプロ奏者に現代音楽について聞いたら、「面白い。病みつきになる」と苦笑した。

大石がアンコールで独奏した「黒田節」はパワフルで重厚、外連（けれん）味があふれた。戦（いくさ）に臨むサムライの覚悟が感じられた。

（茂）

舞台批評

32人が躍動、演出のサジ加減も絶妙

音楽劇「ルドルフと～」

総合劇集団俳優館（代表・森釗）が「ルドルフとイッパイアッテナ」（8月15～18日・千種文化小劇場）を公演した。岐阜の飼い猫ルドルフと、東京の猫たちとの交流をコミカルに描いたファミリー・ミュージカル。原作は齊藤洋の小説、脚本は鹿目由紀、演出はニノキノコスター、総勢32人が出演した。

猫たちのミュージカルといえば「キャッツ」が有名だが、「ルドルフ～」も佳作だった。主要キャストは平野萩、勝呂達基、稲吉直人、荘加直美ら芸達者が務め、若い俳優やダンサーが脇を固めた。再演を重ねることで、俳優館の代表作にもなるだろう。

「言葉遣いが乱暴になると生活も乱暴になる」「みんなが嬉しいと自分も嬉しい」「人間はどうして猫を飼うの?」。猫たちの言葉は、子供だけでなく、大人にとっても名言である。

悪役の猛犬デビル（ひょーどー）、道化役のおばあさん（荘加）、6匹のかわいいキャッツシスターズなど、演出のさじ加減も絶妙。主役ルドルフを演じた平野はダンスも巧みで「キャッツ」のミストフェリーズのようだった。（シゲル）

「ルドルフとイッパイアッテナ」

群読「貝の歌」

興味深い群読の公演に出合った。いのこ福代プロデュースの「精霊たちの夏」（8月9、10日・千種文化小劇場）第2部「貝の歌」だ。群読と言えば思い出すのが2005年「愛・地球博」で連日上演された群読劇「一粒の種」である。俳優を志す若者たちの一糸乱れぬ群読劇は好評を博し、多くの来場者を魅了した。

「貝の歌」に出演したのは岡田一彦、いのこ福代、小島範子、荒川洋子ら21人。現在の地元演劇界をけん引する実力者たちである。彼らの群読は「一粒～」のように統制されたものではなく、それぞれが、それぞれのペースとスタイルでドラマを語り継いだ。

にもかかわらず、「貝の歌」はテーマである「反戦と平和な未来」を力強く歌い上げたのである。それは彼らが書かれた文字を言葉にし、その意味を自分の思いとして実感を込めたからに他ならない。経験と研さんの賜物である。そして体調不良を押して大勢の出演者をまとめ上げた演出・中島良一の手腕である。（上野）

力強く歌い上げた〝反戦と平和〟

群読劇「貝の歌」のワンシーン（撮影・服部義安）

盛かおる&出來秀一、名唱&名演

「奥様女中」のワンシーン

喜歌劇「奥様女中」

声楽家・小林史子がプロデュースしたミニ・オペラ「奥様女中」（8月12日・東文化小劇場）を見た。したたかで美しい女中が、雇い主の老紳士を丸め込み、まんまと妻の座を手に入れる―。モーツァルトやロッシーニに多大な影響を与えたと言われるイタリアの作曲家ジョバンニ・バッティスタ・ペルゴレージの代表作である。

女中に盛かおる、老主人に出來秀一、物言わぬ使用人に森拓斗。ピアノ演奏は木村恵理。いずれも小林が「ドンピシャ！」と見込んだソリストである。中でも気弱な老主人を演じた出來のナチュラルな演技は秀逸だった。

ペルゴレージの曲は軽快でコケティッシュ。モーツァルトの「フィガロの結婚」を思わせる（むろん、モーツァルトが影響を受けたのである）。60分ほどの小品とはいえソリストは二人。歌の量は相当なものになるが盛、出來ともペースを乱すことなく正確な音程とリズムを最後まで堅持した。

公演第2部には、同じくジョバンニ作曲の聖歌「悲しみの聖母」が12人の女性メンバーによって披露された。美しい旋律に心が和んだが、個々の歌唱にバラつきがあったのが残念。

際立った上級者、客演ダンサー

「ヘレンケラー」のワンシーン（撮影・杉原一馬）

ゆうこ♡バレエスタジオ

愛西市、四日市市でスタジオを運営する「ゆうこ♡バレエスタジオ」が第29回バレエフェスティバル」（8月9日・四日市市文化会館）を開いた。

メーンプログラムは主宰・吉見優子の創作バレエ「ヘレン・ケラー」。その前のバレエコンサートでは、教師を兼ねる上級者や客演ダンサーが素敵な演技を披露した。

珍しい「アレルキナーダ」のグラン・パ・ド・ドゥを踊ったのは中村真菜と奥田丈智（客演）。共に長身でスリム。奥田の気品あふれる好リードで中村の伸びやかなダンスが際立った。

「眠れる森の美女」から、オーロラのヴァリエーションを踊った遠藤聖佳は、落ち着いた丁寧なダンスで抜群の安定感を見せた。「海賊」より、寝室のパ・ド・ドゥを踊った樋口優理と野々山亮（客演）は、何種類かのダイナミックなリフトを披露し、観客を沸かせた。

「ヘレン・ケラー」は米国の伝記映画「奇跡の人」としても知られる世界的名作。三重苦（見えない、聴こえない、話せない）に侵された少女ヘレン（樋口優理）と、家庭教師として雇われたアン・サリバン（田中優苺）の闘病記。キッズへの配慮からコミカルな演出が施されていた。一方で悪霊のシーンなど、現代舞踊的構成も。ここでも中村（看護師）と奥田（医師）がスタイリッシュなコンビネーションを見せた。

名作戯曲の要旨を的確に描出し

「山脈（やまなみ）」

「山脈」のワンシーン

戦争は建物や自然、そして人間関係や人の心までも破壊する。伊藤敬が主宰する戦争を語り継ぐ演劇公演シリーズ第11弾「山脈（やまなみ）」を観劇した。

今作は伊藤の書き下ろしではなく、木下順二の長編戯曲を一部割愛して使用（演出は伊藤）。これまでの10作とは少々毛色の違う舞台になった。出演者はダブルキャストで、私が観劇したのは主人公（とし子）を内藤美佐子が演じた千秋楽の公演。

夫を戦地に送り出し、義母（田中峰子）とともに信州の山村に疎開してきたとし子。彼女は夫の友人・山田（上田定行）と交流があり、実は密かに愛し合っていた。いわゆる〝W不倫〟である。「戦時中の不倫」とは穏やかでないが、これは木下の、国家に対する反骨のドラマであると解釈したい。つまり、時代も社会も「人の心を拘束することはできない」と言っているのである。

同時に同作は、信州の大自然と山村に暮らす人々を通して、日本と日本人の風俗や生活習慣を巧みに表出した。人は生まれ育った地域によって育まれ、人格が形成される。戯曲の要旨を的確に捉えた伊藤の演出、大量のせりふ（それも方言）を登場人物の言葉として語りドラマを構築した俳優たちの熱演である。

間奏曲

「音楽の友」ベスト10に若手進出

「音楽の友」9月号に読者の投票による「あなたが選ぶクラシック・ベストテン」が発表された。

好きな演奏家で特に目立ったのは、石田泰尚が率いる弦楽グループ「石田組」が室内楽グループで世界のトップ。石田自身もヴァイオリニストの1位で、人気の高さを誇る。

日本人ヴァイオリニストでは、石田組のメンバー佐久間聡一が6位、服部百音が9位、辻彩奈が10位、HIMARIも11位と若手の新顔がそろってランクイン。

今回は、ほかにも若手の進出が顕著。世界のピアニストでアルゲリッチ、ポリーニとレジェンドに。次いで牛田智大が3位。日本人に限っても角野準斗、亀井聖矢が7位、8位と並んだ。

日本人声楽家では、森麻季、藤村実穂子に続いて大西宇宙が3位、森谷真理が6位。笛田博昭が12位に入った。

3年に一度の読者投票で、ファンクラブなど組織票が入る可能性もあるが、人気を知る目安にはなり、毎回注目している。（上原宏）

会員募集

「ナゴヤ劇場ジャーナル」では発行をご支援いただけるサポート会員を募集しています。会費は年間6600円（税込み）。会員には小紙を毎号お届けするほか、紙面にお名前を掲載（希望者のみ）。会員の関係する公演、イベント情報を優先的に掲載させていただきます。

【お申し込み、お問い合わせ】
㈱マネージメント・プロ
TEL 052(508)5095
郵便振替口座 00880-6-206130

私たちは「ナゴヤ劇場ジャーナル」を応援します

青山 皆江　神谷久実子　中川 幸作
秋田巳喜子　北村 哲也　仲条 優理
荒川 洋子　工藤寿々弥　夏目 久子
飯田みち代　佐藤 典子　名鶴ひとみ
出田 光代　佐藤美智子　西川 長秀
伊藤 修　佐野 和美　野々山保治
伊藤 敬　澤脇 達晴　野村 祐子
伊藤 直樹　白樺 八青　服部 節子
稲垣 舞比　すぎうらとしはる　花咲 市岡
今村 早伽　杉江 瑠美　花柳 磐優
内田 寿菊　鈴木 幾子　林 雅仁
内田寿千代　鈴木久美子　福井 啓子
内田 寿晴　鈴木 文雄　渕本晴都子
内田るり千鶴　須山 仁美　松波千津子
内田るり美　角田真優美　松本 道子
大寺 資二　高倉 麻耶　見波 紀子
岡田 一男　武市 孝三　宮西 圭子
岡崎 保彦　竹元まき子　山口 雅子
小倉ひろこ　田淵友佳理　吉田 尚弘
小野由加利　玉田 弘子　よしみゆうこ
加藤 静子　つつみあつき　渡部 千枝
金澤 志保　手塚 淑子
蟹江 尾八　戸田美江子　ほか

和光写真／㈲テス・大阪／㈱三光／Hide Dance Lab.／㈲ビデオ教映社／松岡伶子バレエ団／エス・エー企画／Office KAN
NORIKO BALLET STUDIO／かやの木芸術舞踊学園／春日井市日本舞踊協会／メリー・アーティスツ・カンパニー／関山スタジオ
特定非営利活動法人日本室内楽アカデミー 理事長 佐々木伊利子／ミュージカルアカデミーKAO／（一社）復曲能を観る会
フィルハーモニカー・ウィーン・名古屋／明珠会 山村楽乃／川島ナナバレエ研究所／スマイル・ミュージカル・アカデミー
Rose Ballet Academy／越智インターナショナルバレエ／Rrバレエスタジオ 杉江瑠美／一般社団法人イタリア音楽振興会

上原宏の☆音楽☆聴き歩き

実力者揃い綿密なアンサンブル

ザ・ストリングス

ザ・ストリングス名古屋の第26回定期演奏会（9月2日・電気文化会館）は、生誕200年のライネッケ、150年のホルストを中心に臨んだ。

名フィルの特別客演コンサートマスター山本友重を迎え、矢口十詩子ら14人がメンバー。

最初のアレンスキー「チャイコフスキーの主題による変奏曲」は、チャイコフスキーを追悼する気持ちからか静かな雰囲気だった。対照的にホルスト「セントポール組曲」は、明るくリズミカルで、

それぞれの弦が躍動した。

ライネッケ「弦楽のためのセレナーデ」は、さまざまな曲想の全6楽章が情緒にあふれ、弦楽セレナーデらしい傑作。実力あるメンバーが緻密なアンサンブルで、その魅力を伝えた。

初めて聴く曲でも大いに楽しませる。さすが。

コダーイの超難曲も物ともせず

チェロ／下島万乃

チェロの下島万乃（まの）が「無伴奏チェロリサイタル」（8月27日・HITOMIホール）を開いた。定評のある技術が炸裂した。

「マノ・ア・マノ」とスペイン語のタイトル。自分と対する意味なら無伴奏がふさわしい。

バッハ「無伴奏チェロ組曲第3番」は、その代表作で幕開けにはピッタリ。次の黛敏郎「BUNRAKU」（文楽）は、何度か聴いたが、そのたびに感心する。これだけでも彼女を十分理解できるが、東京藝大での友人作曲家、冷水乃栄流（ひやみず・のえる）と久保哲朗に委嘱した2曲は、作品と演奏がよくマッチしレベルが高かった。

最後のコダーイ「無伴奏チェロソナタ」は超難曲だが、ものともしない。

共存するダイナニズムと繊細さ

ピアノ／伊藤香紀

ピアノ伊藤香紀（かな）のリサイタル「出航」（8月31日・電気文化会館）。日本からフランス、イタリアなどヨーロッパ、アメリカを周り日本に帰る趣向のプログラム。武満徹「雨の樹素描Ⅱ」知人の作品を取り上げる姿勢もいい。今回も"超絶技巧"を堪能した。

で静かに出発、ドビュッシー「前奏曲第1巻」の3曲、ベートーヴェン「ピアノ・ソナタ第14番・月光」、ソプラノ松永三沙希の明るい声で、ヴェルディ「ストルネッロ」ほかを挟み、バーバー「ピアノ・ソナタ」と、バラエティーに富んだ選曲。

強いタッチでダイナミックに突き進むタイプだが、その中に美しい音色があるのが魅力。ドビュッシーは輪郭のはっきりした映像で表現した。この豊富な内容をソツなくこなす包容力がある。

最後のバーバーは難曲だが、持ち前のテクニックで迫力満点。圧巻のラストを決めた。

奏でる人を聴きたい人へ　人と音を結ぶ
クラシック名古屋
052-678-5310
金山総合駅 南口より徒歩3分
名古屋市中区正木4-8-7　れんが橋ビル1F

クラシックコンサートのチケットは
アイ・チケット　0570-00-5310
（11:00～16:00 ※土日祝休）
アイ・チケット web 検索
お好きな時間にお好きな席を選んでクリック♪

クラシック名古屋のプレイガイド「アイ・チケット」
多くのクラシックコンサートのチケット販売から、ホール、座席のことまでオペレーターが、丁寧に対応いたします。
ホームページからもチケット購入ができる、便利なクラシック専門のプレイガイドです。